

**独立行政法人国立国語研究所「外来語」委員会 第13回
議事要旨**

1. 日時 平成15年12月5日(金) 10:00~12:00
2. 場所 国立国語研究所会議室
3. 出席者 甲斐委員長, 中西副委員長, 水谷副委員長, 相澤委員, 阿辻委員, 倉島委員, 古賀委員, 輿水委員, 柴田委員, 関根委員, 田中委員, 鳥飼委員, 山崎委員
4. 会議の概要

(1) 第3回中間発表に向けての作業について

提案の基本姿勢や発表の形式などについて検討していくこととした。

第3回対象語の絞り込み方法について検討していくこととした。

(2) その他

第4回言い換え提案の基本方針等について意見交換を行った。

5. 会議での主な意見

説明語句の扱いの違いをどこで区別をするのか明確な基準がないので, 使用者側に判断させる根拠, あるいは理由が提示されないと混乱を招くのではないか。

我々は言い換えを求められているところから, 言い換えそのものを検討すべきで, それと説明付与とは別のことではないか。従来のように用例があって, 説明, 手引きがあるというのが非常に分かりやすいと思う。

国語審議会答申で外来語の扱いについて考え方をまとめた表の全てをやっていたために, 言い換えのほかに説明語句が必要になったのであって, 原点に返って, この表の精神を生かしていくのかどうかを確認する必要がある。

今後, 言い換え語だけでなく, 説明付与して使うものもあるということをしっかり訴えていかないと, それらが同じように並べられ, 報道されてしまう可能性がある。言い換えて使う外来語と, 注釈のかたちで, あるいは説明を付けて使う外来語とを分ければよいのではないか。

この提案の適用対象が前文にうたってあるが, それを超えて受け止められているので, もっと明示的に書いた方がよい。

分かりにくい外来語の認定を行うための, 一番大きな基準は定着度調査の結果だが, 具体的にどういう調査を何に対して行ったかという概要を記述してはどうか。

外来語の定着度調査における年齢の括り方の一つが杓子定規に60歳以上に設定されたが, その意義がぐらつきだしたのではないか。

補足に, そのまま使って問題のない外来語を加えるのは要らぬ誤解を防ぐためにも必要だが, 専門語として使われている限り, 問題のない語の例を加えることは疑問。これらがまん延して, 意味が拡散したり意味がずれたりして一般語化する危険が大きい。前書きなどに分かりにくい外来語を無意識に使うことの反省を促す一文が入ればよいと思う。

専門語が問題になることが多くなると思う。特にマスコミは専門語を多用するという火種を幾つも抱えている。専門語の中でどういう解決をしてほしいのかを書くのであればよいが, 専門語は外すというのはちょっと荒っぽいのではないか。

特集は賛成。分野を絞っていくのはいいが、科学技術用語は対象外だというふうに、外すことはいかがか。新聞やテレビ等で家庭に送り込まれているものも多いので、全く外してしまうのではなく、次回に、例えばコンピューター用語とか医療福祉用語とかを考える中の一つとして、科学技術用語も考えることにすればよい。

日常生活で普通に使われるようになっている短縮語についてもどこかで見ていかなければならない。

使用頻度の非常に低いものは、ある企業名や事業名として有名にはなったけれども理解されていない可能性が高いので、説明語句あるいは意味説明を付けることは賛成。

定着度の分析の発表は、是非中間発表、あるいは最終発表のときに合わせて行うよう配慮いただきたい。

以上